

2020年4月3日付 韓国環境部プレスリリース

江原道高城郡、死亡野生イノシシからASF ウイルス初検出（野生イノシシ 480 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1363075&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部(長官ジョミョンレ)は江原道(カンウォンド)高城郡(コソングン)県内面(ヒョンネミョン)民間制限線内で捕獲されたイノシシ1個体からASFウイルスが検出されたと4月3日明らかにした。

* 華川(ファチョン)187件、漣川(ヨンチョン)181件、坡州(パジュ)86件、鉄原(チョルウォン)23件、楊口(ヤング)2件、高城(コソン)1件、全国合計480件

○今回陽性となったイノシシは、3月31日、高城(コソン)地域猟師と軍部隊の合同捕獲中、猟師が捕獲した個体である。高城郡(コソングン)は野生イノシシASF標準行動指針により試料を採取し、現場消毒と共に死体を処理した。

○この地点は南方限界線から40m、非武装地帯通文から1.2km離れており、広域フェンスから21km内側に位置している。華川郡(ファチョングン)発生地点からは70km以上離れている。

□環境部は、「同地域は民間人出入り統制地域であり、発見地点が南方限界線鉄柵と隣接している点などを考慮すると、非武装地帯内ウイルスが間接的に伝播した可能性がある。死体搜索、環境調査等を通して伝播経路を把握する予定」と述べた。

□環境部はフェンス設置、死体集中搜索、捕獲檻/罟拡大配置など、周辺地域での拡散遮断のための措置を推進する。

○感染したイノシシの移動を遮断するため、発見地点周辺を囲むフェンスを迅速に設置し、既存広域フェンスの瑕疵の有無、出入り口開閉状態などを直ちに点検する。

-また、追加的に広域フェンス内を区画化し、感染したイノシシの周辺地域での拡散を遮断する計画。

○また、拡散範囲および感染経路確認のために、国防部と協力し、近隣地域の死体を直ちに搜索して、発生地域周辺DMZ通門や河川などに対する環境調査を推進する。

○一方、銃器捕獲により感染したイノシシが移動しないよう、発生地点近隣での銃器捕獲を留保し、イノシシ個体数低減のために捕獲檻/罠の設置を大幅に拡大する。

□農林畜産食品部は国防部と協力して、高城（コソン）地域 DMZ 通門と民間制限線警戒所の出入り車両と人員を、消毒施設を活用して徹底的に消毒する。

○また、今回の発生地点半径 10k m 内に養豚農場はないが、高城郡（コソングン）（7 戸）と麟蹄郡（インジェグン）（5 戸）の養豚農場 12 戸の防疫状況を特別点検し、農場周辺道路、農場進入路などを集中消毒する。

□環境部は「野生イノシシの死体を発見した時は、接近せずに、地方自治体などに迅速に申告し、発生地域近隣の山地とフェンス内出入りを自制してほしい」と呼び掛けた。

以上